

授業科目名	子ども家庭福祉	担当教員名	入江 実
必修/選択	必修（保育士資格/社会福祉主事任用資格）	開講学年・学期	1年 前期（年間開講数 2講座）
科目区分	保育に関する科目	単位数	2単位
施行規則に定める科目区分等	保育の本質・目的の理解に関する科目(別表1)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 児童養護施設主任児童指導員としての実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。 ※「児童福祉論」の指導内容を含む
授業の到達目標	<p>児童家庭福祉は社会福祉の一領域であり、その関係を解説するとともに、児童にとっての家庭の役割・重要性を理解してもらう。そして児童をとりまく環境としての家庭、学校、地域社会の関わりに触れながら、児童本来の姿を見出し、児童の権利を守る体制を考えていきたい。</p> <p>(1)現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について 理解する。 (2)子どもの人権擁護について理解する。 (3)子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 (4)子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 (5)子ども家庭福祉の動向と展望について理解する</p>		
授業の概要	現代社会の中での児童家庭福祉とは何かを理解していく。授業を通して児童と家庭、社会との関係の理解を深め、児童家庭福祉に関わる法制度、援助体制についても学習していく。		
テキスト	「新・社会福祉とは何か」 一番ヶ瀬康子編著（ミネルヴァ書房）		
参考書・参考資料等	特に指定せず		
成績評価の方法	○参加意欲：20% ○新聞記事によるレポート：25% ○定期試験：55%		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	講義の進め方		
第2回	（6. 児童福祉Ⅰ）敗戦直後の児童福祉：敗戦直後の児童福祉、憲法の原則と児童福祉法の理念、児童憲章の制定		
第3回	（6. 児童福祉Ⅰ）児童養護問題の現代的諸相		
第4回	（同章）児童福祉施設の制度体系		
第5回	（同章）子ども虐待問題とその推移 改正児童虐待防止法の内容、子ども虐待をなくすために		
第6回	（同章）子どもの権利条約を活かすために 子どもの権利条約の特徴と歴史的意義		
第7回	（同章）施設養護で「子どもの最善の利益」を保障するために		
第8回	新聞記事を教材とした学習		
第9回	（7. 児童福祉Ⅱ）保育所・幼稚園の整備計画推進から保育所抑制政策へ、女性の社会参加の推進と保育政策の軌道修正		
第10回	（同章）保育所の目的と幼保関係について、市町村の「保育の実施」責任と保護者の「入所申し込み」について、保育所制度の基本となる児童福祉法二四条		
第11回	（同章）保育所設置認可の規制緩和、国民の切実な保育要求の高まり		
第12回	（同章）保育所・幼稚園の普及の特徴、少子化対策と保育所機能の拡大		
第13回	（同章）増え続ける0・1歳児保育、延長保育の広がりや保育時間問題、進まない保育所最低基準の改善		
第14回	（同章）解消されない待機児と強まる無認可施設依存、保育所財政の課題		
第15回	全体のまとめ		
定期試験	筆記試験		